

<世界淡水魚園>

【沿革】

- 平成 11 年 7 月に「河川環境楽園」の中核施設として開園。
- 平成 16 年 7 月に「世界淡水魚園水族館『アクア・トトぎふ』」が開館。
- 「河川環境楽園」は国営木曽三川公園、県営公園「世界淡水魚園」、自然共生研究センター、岐阜県水産研究所、川島パーキングエリア、ハイウェイオアシスなどで構成された環境共生型テーマパーク（全体は約 50ha）。

【施設特性】

- 面積 約 3.4ha
- 開園時間 9:30～ 22:00 （4 月下旬～10 月下旬 9:30～ 22:30）
（1 月上旬～ 3 月下旬 9:30～ 19:00）

世界淡水魚園水族館

平日 9:30～17:00、土日祝 9:30～18:00

- 駐車台数 2,198 台
うち高速道路エリア 428 台

【指定管理者の現状】

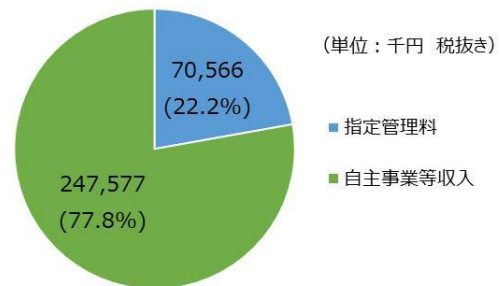
- 平成 27 年度～平成 33 年度の 7 年間、世界淡水魚園水族館を除く区域の指定管理者は(株)オアシスパーク。
- 世界淡水魚園水族館の指定管理者は整備当初より (株) 江ノ島マリンコーポレーション（平成 16 年度～平成 46 年度）。
- 指定管理者は利用料金収入等にて管理運営し、県から指定管理料は支出してない。

【地域連携】

国営木曽三川公園、ハイウェイオアシス、川島パーキングエリア及び自然共生研究センター等と一体化しており、周辺施設・地域との連携により多くの利用がある。

国や関係自治体と「河川環境楽園イベント実行委員会」を組織し、季節に応じた「楽園祭」を実施している。

平成 27 年度の指定管理者の収入実績の内訳
(株オアシスパーク)



(収支差 4,431 千円)

平成 27 年度の指定管理者の収入実績の内訳
(株江ノ島マリンコーポレーション)

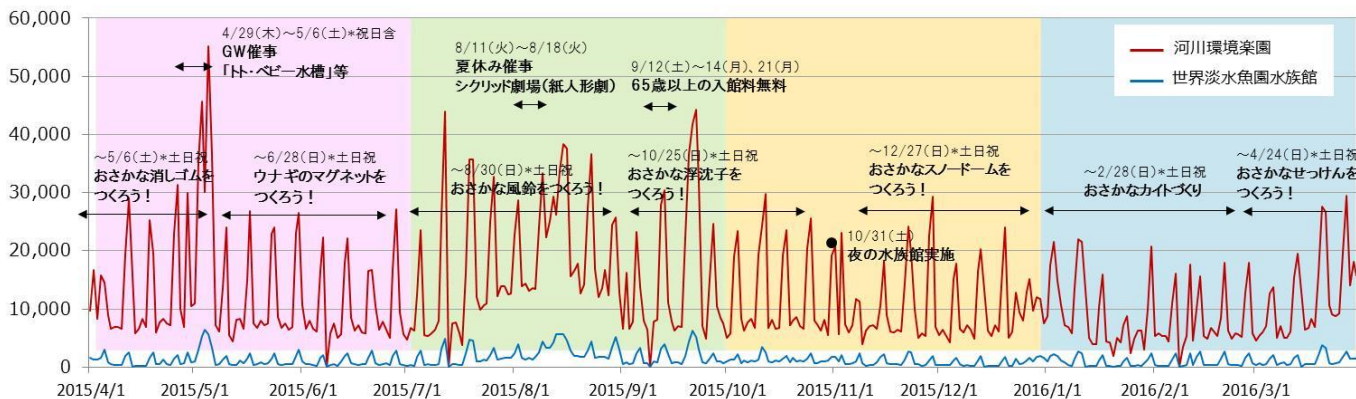


(収支差 35,938 千円)

【入園者数等の動向】

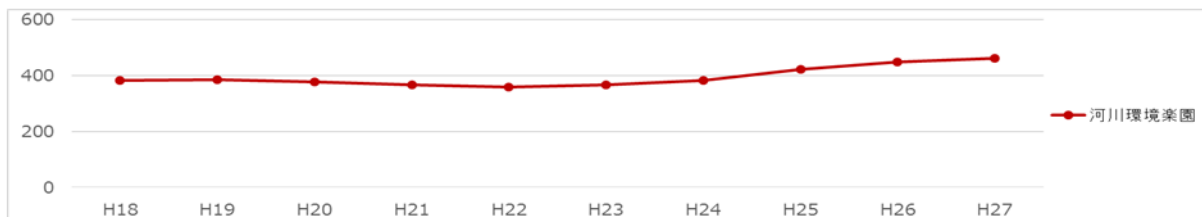
- 日平均利用者数が最も多いのは8月であるが、年間を通じて日平均で1万人程度の利用者がいる。

【日別入園者数推移】（平成27年度）



【年別入園（入館）者数推移】（平成18～27年度）

河川環境楽園入園者数（万人）



世界淡水魚園水族館入館者数（万人）

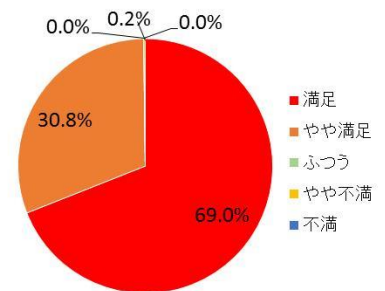


【公園の主なイベント・プログラム】（平成27年度）

- （世界淡水魚園）イベント 春・夏・秋・冬の楽園祭 等
- （世界淡水魚園水族館）
 - イベント 企画展「ニホンウナギ」、「アフリカ進化の湖」、「世界のハイギョ」
65歳以上入館料無料企画 等
 - プログラム ものづくりワークショップ、ゴールデンウィーク・夏休み催事企画、
企画展に合わせた 講演会、シクリッド劇場（紙人形劇）、お泊りナイト
ツアー

【アンケート結果（世界淡水魚園）】（平成 26 年度）

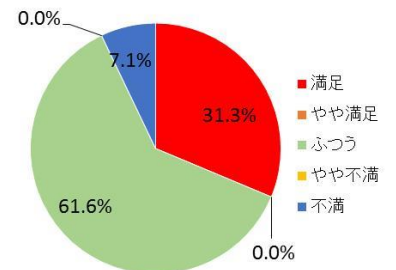
- 【居住地】 岐阜県が 34.8%、愛知県が 52.0%
- 【年代】 30 代が最も多く約 28%を、次いで小学生以下が約 17%を占める。
- 【性別】 女性が約 61%を占める。
- 【利用形態】 家族(68.6%)、夫婦(16.7%)、友人・知人(7.0%)、一人(3.1%)、カップル(2.6%)
- 【来園頻度】 初めて(17.9%)、数年に 1 回(25.5%)、年に 1～数回(30.3%)、月に 1～数回(19.7%)、週に 1 回以上(6.6%)
- 【来園動機】 施設が充実(38.9%)、大型遊具や水遊び場(22.8%)、イベント・催し物参加(22.7%)、健康づくり・植物の鑑賞(9.4%)、その他(6.2%)
- 【滞在時間】 1 時間未満(7.6%)、1～2 時間(14.8%)、2～3 時間(25.0%)、3～4 時間(22.6%)、4～5 時間(13.7%)、5 時間以上(16.5%)
- 【満足度】 満足(69.0%)、やや満足(30.8%)、ふつう(0.0%)、やや不満(0.2%)、不満(0.0%)



世界淡水魚園 満足度グラフ

【アンケート結果（世界淡水魚園水族館）】（平成 26 年度）

- 【居住地】 岐阜県が 26.8%、愛知県が 45.4%
- 【年代】 小学生以下が最も多く、約 36%、次いで 30 代が約 26. %を占める。
- 【性別】 女性が約 56%を占める。
- 【利用形態】 家族(80.8%)、友人・知人(7.8%)、カップル(4.7%)、夫婦(4.0%)
- 【来館頻度】 初めて(45.8%)、数年に 1 回(54.2%)
- 【来館動機】 淡水魚が見たかった(17.6%)、水族館が好き(16.3%)、特別展を見たかった(13.2%)、涼しそうだから(8.2%)、その他(44.7%)
- 【満足度】 満足(31.3%)、やや満足(0.0%)、ふつう(61.6%)、やや不満(0.0%)、不満 (7.1%)



世界淡水魚園水族館 満足度グラフ

<世界淡水魚園の強み、弱み、機会、脅威>

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する国営木曾三川公園に加え、自然共生研究センター、水辺共生体験館、岐阜県水産研究所、川島パーキングエリア等の一帯が、「河川環境楽園」として有機的に機能している。 ・ハイウェイオアシスとして整備され、川島パーキングエリアからも直接入園することが可能であり、自家用車等によるアクセスが非常に良い。 ・各施設が「水」をテーマとした統一したコンセプトで運営されている。 ・淡水魚の水族館としては世界最大級の水族館を有する。 ・愛知県との県境に立地することから、他県からの来園者が多く、本県をPRする場として適している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県営公園としては約3.4haと狭小である。 ・公共交通によるアクセスが弱い。 ・当初整備時の役割を終え、有効活用されていない施設がある。 ・「河川環境楽園」の敷地内は、国営・県営・民間と管理主体が異なっており、案内サインが統一されていない。
機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年12月の「清流長良川の鮎」の「世界農業遺産」への登録や、平成28年7月の岐阜県水産研究所内への「内水面漁業研修センター」の開設など、「清流の国ぎふ」を進めていくための中核エリアとしての役割が強化できる機会の到来。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催に伴うインバウンドの拡大機会の到来。 ・リニア中央新幹線開業による交流人口増。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少（少子高齢化）の進行。 ・公園施設の老朽化の進行による陳腐化。 ・類似施設との競合。 ・東海環状自動車道全線開通に伴う、関西圏から高山方面へ向かう観光客のシフトによる東海北陸自動車道の交通量の減少。